

ちば通研だより No.515

千葉県手話通訳問題研究会（発行責任者）米田 市子（編集者）渡辺 正夫
住所：〒260-0022 千葉市中央区神明町 204-12 千葉聴覚障害者センター内
FAX：043-247-1201 E-Mail：syuwa@nifty.com URL：<https://syuwa-chiba.la.cocacn.jp>

手話を考えるフォーラム

～「『千葉ろう学校誕生の地』知ることで開く未来」～

2026年2月11日(水・祝)に千葉県文化会館にて、第25回手話を考えるフォーラムが開催されます。今回は、1日開催です。

全体の総括テーマは「『千葉ろう学校誕生の地』知ることで開く未来」です。

そして特別講演は、太田裕之氏を招聘して行います。テーマは「設置通訳者の『つなぐ・つなげる役割』について」（仮題）です。太田氏は、全国聴覚障害者情報提供施設協議会副理事長、香川県聴覚障害者福祉センター施設長、公益社団法人香川県聴覚障害者協会常務理事を務めている方です。

日時：2026年2月11日(水・祝) 10時20分～16時30分

会場：千葉県文化会館

第1分科会（ろう重複・福祉事業）「BCPで展開するとき市町村の連携とは？」

第2分科会（サークル）「地域格差ってなに？」

第3分科会（システム）「SOS意思疎通支援ネットワークの構築化とは？」

第4分科会（医療）「県と市町村の連携による医療現場」

申込先：千葉県聴覚障害者協会内「第25回手話を考えるフォーラム2025係」
2月2日(月)までにお申し込みください。

フォーラムの案内書が、ちば通研ホームページの「情報」に掲載されています。

1月27日時点でのちば通研の会員数は335人
(読者会員会員数は12人)
2025年度の目標数は350人です
数はカ！みんなで会員を増やしましょう～



しゅわりん

関東ろう活動者研修会報告

1月17日(土)・18日(日)「第52回関東ろう活動者研修会 in 千葉」がサンライズ九十九里にて開催されました。この研修会には、きこえない・きこえにくい人々の支援等を関東6都府県の聴覚障害者協会が研修と意見交換を重ねてきた歴史があります。

基調講演：「障害者権利条約と手話施策推進法の舞台裏は・・・」

講師：国連・障害者権利委員会委員の田門 浩氏

分科会

第1分科会：「デフコミュニティの持続可能性と未来戦略：少子化時代の運動展開」

第2分科会：「東京2025デフリンピック後のデフスポーツはどうあるべきか：レガシーの継承と次世代育成」

第3分科会：「手話施策推進法施行後、私たちはどう動くべきか：国民への理解促進と具体的展開」

助言者：田門 浩氏

私が参加したのは第3分科会でした。

さすが田門氏の説明は明快で、混乱していた頭の中が少し整理できました。

「理念法であるが、5年後の見直しに向けて私たちが行政との交渉等の運動により実績を積み重ねていく必要があること」が強調されていました。

また、3つの分科会に共通するのは「次の世代にどうつなげていくのか」という問題意識であり、今回の研修会の重要な課題でもありました。



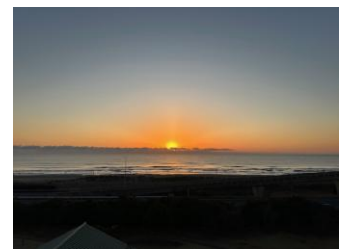
(監査 山田 尚子)

関東ろう活動者研修会に参加して

前回の埼玉県での開催で初めて参加して、今回は千葉県での開催なので絶対に参加しよう!と決めていました。会場準備や受付、物品販売等のお手伝いもできたので、時間に追われながらの忙しい2日間でしたがとても充実していました(次回も是非参加したい!)

基調講演及び希望した分科会では手話施策推進法についてお話がありました。分科会のなかでは、「手話通訳者や全国手話検定1級合格者が企業で通訳として活躍している」という事例の発表があり大変驚きました。

夜の交流会では、他県から参加された方からおしゃべりの途中で「ろう学校はどこだったの? 千葉ろう?」、「聞こえるの?」、他のテーブルでは私のことを「聞こえる障害者」と話していたとか。どう見ても通訳者には見えないからですね(笑)。手話は言語だからこそ、伝えたい!という強い気持ちを持って、楽しみながら勉強して、いずれ手話で仕事をしたいな~。日の出を眺めながら決意を新たに。頑張るぞ! (富里班 金子 有美)



関東支部代表者連絡会議及び関東健康担当者会議 報告

1月25日(日)、10時～11時30分まで、支部代表者連絡会議がZoomにて行われ、千葉支部から理事の渡辺正夫さんと米田が出席しました。

2025年度もあとわずかとなりましたが、今後の事業として、2月1日(日)、埼玉県障害者交流センターにおいて「関東N-Actionのつどい」を開催し、関東ろう連青年部を交え講演会が行われます。また2月14日(土)、東京都大田区池上会館にて、関東ろう連と合同開催の「防災フォーラム」では講演会とパネルディスカッションが行われます。年度末の忙しい時期ではありますが、この学習の機会を逃さず是非ご参加ください。

会議では2026度に向け、4月のブロック別代議員会の対面開催や役員改選について、5月の総会の会場や関東討論集会の日程調整について確認し合い、各支部の情報交換を行いました。理事の渡辺さんからコロナ禍減少していた全通研の会員が、2025年度数年ぶりに1万人を超えたとの嬉しい報告もありました。

その後午後1時～3時まで、関東健康担当者会議が同じくZoomで開催され、18人の参加がありました。桐原サキ調査委員会委員より、「2025年度雇用された手話通訳者の労働と健康についての実態調査」について、調査の概要と集計の途中経過の報告がありました。今回は電話リレーサービス従事者の調査と企業訪問調査が行われたこと、回収率の低下や調査項目、企業や行政関係各部への周知等の課題について意見交換を行いました。最後に各支部の健康の取り組みについて情報交換があり、他支部の具体的な取り組みやグッズ制作の工夫など千葉支部でも参考にしたいと思いました。

(会長 米田 市子)

保育・子育て支援班 『ミニ講演&座談会』 報告

1月25日(日)、10時から12時まで、松戸市健康福祉会館 ふれあい22会議室において、保育・子育て支援班の学習会を行いました。

テーマ「きこえない人の子育て ～今と昔～」千葉聴覚障害者協会女性部のご協力をいただき、講師に林田由美さんを推薦していただきました。

以前は毎年開催してきた『ミニ講演&座談会』ですが、このところ実施していませんでした。

久しぶりの企画で慣れないこともあり皆さんへのお知らせが遅くなってしまい、どのくらい集まれるか危惧していましたが、参加者は21人でした。松戸近在のきこえない方々も多く参加してくださり、「林田さんの経験談と同じような経験をした」「電話リレーサービスにより、便利になった」など、いろいろなお話が聞けました。

きこえない中での子育ても、ご夫婦で協力しながら、時に衝突しながら子どもを第一に考えてきたことが、どなたのお話の中でも感じられました。

(保育・子育て支援班班長 渡邊 裕美)



※参加者感想

- ・きこえない人たちがたくましくその時代の中で子育てされてきたこと、これからの若い人たちにも知ってもらいたい。(会員)
- ・普段の生活の様子も聞いてみたいと思った。参加してよかった。(一般)
- ・経験談はよくわかった。座談会の時間がもっとあったらなあ。(きこえない人)

「福祉の現場を経験して しろろが語る！」 Vol.11

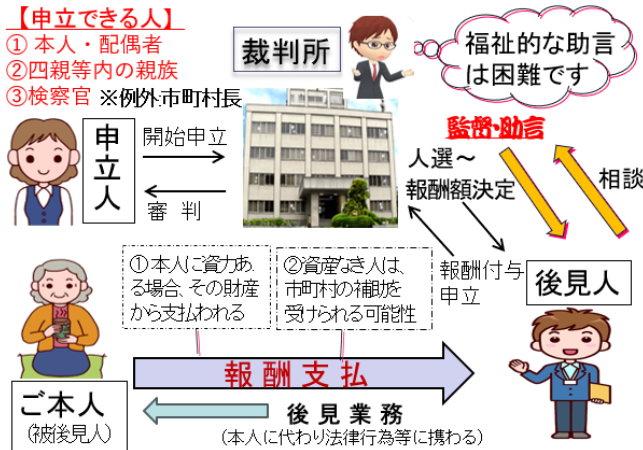
世界の利用率は国人口の1%、日本は0.1%未満
成年後見制度利用支援事業の伸展の鍵は？

(問) どのような障害があれば利用できるか？

	身体障害	知的障害	精神障害	高齢者
法定後見	× 対象外	○	○	× 認知症 進めば○
任意後見	○	×	×	○

※判断能力の有無等の判断は、医師の診断書や本人・関係者からの聞き取り等を参考に裁判所(任意後見:公証人)が決める

法定後見の基本構造



現制度は「**財産管理重視型**」**不当な契約等から財産を守る**

※これから目指す制度 { ① 誰もが利用しやすい
 ② 身上監護(生活支援)重視型
 そのために「**行政主導の福祉的支援システム**」が必要
「地域にチームアプローチ・連携ネットワークを」

☆国の動き☆

- H29年「制度利用促進基本計画」を閣議決定
- H30年4月厚生労働省に「利用促進室」を設置
- 地域連携ネットワーク構築・中核機関の設置
- 「2021(R3)年度までに整備するよう」自治体に大号令

現状・地域の取組みは進んでいない！



日本では利用が浸透しない成年後見制度。国はその推進を図るため関係法を整備してかなり前から自治体に実施要綱の改正・改善を指導してきましたが市町村は動きません。自治体のレベルはそこに暮らす市民のレベルを如実に反映します。

私の住む鎌ヶ谷市でもこうした事情を理解する市民はごく少数で私は十年前から市に訴えています。がきちんとした回答はありません。この補助事業は「地域生活支援事業」でどう進めるかは最後は市町村の裁量に任されています(但し必須事業です)。

国が具体的な基本計画まで示しても、市町村は周りの自治体の様子見で積極的に取り組む気なし(東葛地区で要綱改正済は流山だけ)。昨年夏の市長選の際現市長に説明資料を作り直訴しましたが見通しは不明です。原因の一つに「予算確保の問題」もあると思います。高齢者と違い障害者の場合「生い先が長い」ため予算も多く必要です。要望の声の高まりと同時に少数市民のため税金を使うことにどれだけ市民的理解が進むかがカギ。地域には後見制度の利用を必要とする市民が多くいるのに市の補助要件が厳し過ぎるため制度利用につながっていません。行政は自らに都合の悪い情報は隠そうとする体質にあり、市民が自ら気づきにくい行政の宿題については「寝た子を起こすまじ」という構えを崩していません。国の後押しという追い風が吹いている今こそまずは最前線で中心的役割を果たす「中核機関」の早期設置と「市長申立の要件緩和」に向け県民がもっと声を上げるべきなのですが、専門職の間でも市町村の補助の実情はまだほとんど知られていません。本来なら「手をつなぐ育成会」や「精神の家族会」等の当事者団体が勉強会を重ね、県レベルで大運動を展開すべき課題であるにもかかわらず、行政と市民の双方で全く機運が高まらないこの十年を私はやるせない思いで見つめているところです。(黒岩史郎) 次回に続く⇒

医療班コーナー

薬をきちんと服用していますか？

高血圧・脂質代謝異常症(高コレステロール)など慢性疾患の薬は、つい飲み忘れてしまうことがあります。医師は診察時、きちんと服用しているので今の状態なのだと判断して薬を処方します。飲み忘れは薬が増える原因です。少ない薬で効果を得るためには飲み忘れないことが大切です。

飲み忘れないために

1 習慣化

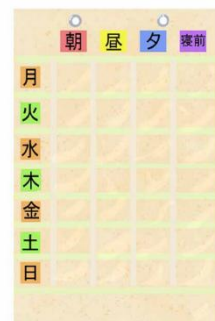
- ・ 行動との紐づけ⇒食後など
- ・ 時間で服用する⇒アラームなどの活用

2 見える化(可視化)

- ・ ピルケースやお薬服用カレンダーの利用
- ・ スマホアプリなどの活用
- ・ 薬と水をセットで置いておく

3 専門家、家族などのサポート

- ・ 一包化
- ・ 声かけ



今回は、「3 専門家、家族のサポート」について解説します。

<一包化>

- ・ 医師の指示により、同じ用法の複数の薬を1回分ずつ一つの袋に入れること
- ・ 氏名、用法や日付、薬の名前などを印字できる
⇒介護をしている方、デイサービス等を利用している方にも便利
また、色線を付けることで、お薬服用カレンダーと連動もできる



<家族などの声かけ>

- ・ 具体的に声掛けする⇒服用のタイミングで「お薬飲んだ？」等の優しい促し
- ・ 介護サービスの、ヘルパー、施設スタッフ、訪問看護師等の声かけや見守り

<飲み忘れの原因>

- ★1回に服用する薬の数が多、1日に服用する回数が多い
同じ効果の薬や配合剤(2つの成分を1つの錠剤にしてある)に変更し、錠数や回数を少なくすることで、負担を減らすことができる
- ★錠剤・カプセルが大きくて飲みにくい
飲みやすい形状や大きさに変更する
口腔内崩壊錠(口の中で溶ける)、小粒タイプの錠剤、粉(散剤)、液剤等

それでも飲み忘れたときは？

- ・ 気づいたときに服用する
- ・ 次の服用時間が近いときは次まで待ち、まとめて2回分は服用しない

《労働班です！》

2025年10月から就労選択支援がスタートしています

注) 利用サービスによって開始時期が異なります

就労系福祉サービス（就労継続支援A型、B型、就労移行支援）を既に利用している、または新たに利用する障害者に向けて就労選択支援の制度が始まっています。

どんな
制度？

就労系福祉サービスを利用したいと思っている人の希望、就労能力、適性に合った仕事や働き方の選択を就労選択支援事業所が実施主体となって支援、障害のある人が「自分に合った働き方を見つけること」を目的とした支援制度です。

具体的には・・・ 本人の能力や一般就労の可能性について、これまでサービス利用や就労支援の選択時に活用が十分でなかった客観的な評価（アセスメント）を行うことでミスマッチを防ぎ、よりその人に合った働き方を選択できるようになります。
また、サービスの利用後もニーズや能力の変化に合わせて選択を変えることが可能になります。

デフリンピックが11月に開催（その10）

今回でこのシリーズを閉じますが、ちば通研だより第503号（2025年2月）から「デフリンピックが11月に開催」シリーズを開始しました。その1からその3までは偶数月にデフリンピックの紹介やボランティアの募集を掲載しました。

その4（第509号）からその9（第514号）までは毎月ボランティア体験記として掲載してきました。

その4 江口朋代さん（市原班）、その5 佐田佐知子さん（船橋班）、その6 佐藤恵子さん（習志野班）、その7 平田真貴子さん（鎌ヶ谷班）、その8 福原和子さん（船橋班）、その9 河野明美さん（市川班）の6人の会員に原稿を書いていたきました。

自分がボランティアとして研修や実際の場面を通して学んだことや感じたことを書いていただきました。

東京2025デフリンピックは、大成功裏に終了しました。初めてのデフリンピックを経験したことは、この6人だけでなく、各競技会場に足を運び応援してくれた多くの人が、肌で感じた感動を今、かみしめていることと思います。

2年後のオーストリア冬季、4年後のギリシャ夏季のデフリンピックも東京2025デフリンピックと同様、デフスポーツを応援し共生社会を創っていきましょう。

（広報部長 渡辺 正夫）

私のイチオシ

…船橋班なっしー！…



私のイチオシは献血です。始めたのは母の闘病きっかけで高校時代ですが、本当にハマったのはバタバタした子育て期を過ぎてから。暴飲暴食？による口内炎、包丁による切り傷やドジな擦り傷、高脂肪な食事や栄養不足な血液…ではお役に立てません。

ついつい自分に甘い生活になりそうなところをギリギリ踏ん張る力になるのは、なんと言っても待合室で読むことができる献血のその先にいらっしゃる患者さんやそのご家族の声。まだ幼稚園にも満たないお子さんから大人まで病と向き合っている方々の声は、何回読んでも胸がつまり、命の大切さを思いおこす原動力です。

お子様連れで来られる方を見ると私も姿を見せるようにすれば良かったなあと思いつつ、次の世代に繋がる期待も高まります。外国の方や、ろう者も献血する姿を見かける事があり、簡単な英語・手話や指さして対応されているスタッフと、パツと嬉しそうにされる様子を見るとほっこりします。長くて3時間でこんな幸せな時間を過ごせる場所。あなたも覗いてみませんか。(NN)



私のイチオシは、東船橋にあるケーキ屋さん『Sugar Shack』

どれも美味しいのですが、なんと言ってもタルトがイチオシ！何か嬉しいことがあればもちろん、理由がなくても「今日は買っちゃおうかな」と立ち寄ってしまいます。ひと口食べると幸福感で満たされます。

以前、娘が小さい頃、近くの皮膚科で足のイボを取る治療をしました。怖さと痛さで大泣きした帰り道、ここでケーキを買って慰めた思い出があります。

最近は何も高くて値上げされ、サイズも小さくなったような気もしますが……それでも食べたくなる我が家にとって特別なケーキ屋さん。おすすめです！(K)



昨年ストレッチの体験をしました。「肩からですよー！」と言われても、首だけピョコン…僧帽筋トレーニングがまさかの難易度MAX。自分の体、言うこと聞かない！

さらに呼吸は1日2万回以上してるのに、間違った呼吸で肩に負担をかけていたなんて…ショック。

呼吸って地味にスーパーヒーローで、自律神経まで整えるらしい。「たかが呼吸、されど呼吸」。今年こそ寝る前に呼吸トレ、痛みゼロの体を目指します。継続は力なり、まずは肩に勝利宣言！



映画「みんなおしゃべり」を鑑賞しました。日本語、日本手話、クルド語と全く違う言語を持つ人々の関わりなどがテーマになっています。そして、実際のろう者、クルド人がキャストされている。コミカルですが考え深い映画でした。やっぱり那須さんの演技は熱いw (M)



地域班通信

富里班：一目惚れして我が家にお迎えしたフラットコーテッドレトリバーの兄弟。もうすぐ8ヶ月になります。可愛くてたまらん！ ですが、毎日のいたずらもたまらん！ 永遠のピーターパンと呼ばれるのも納得です。帰宅して玄関の扉を開ける時には、今日は何していたの！？ と心臓がドキドキしますが、2匹とも元気で長生きして欲しいです。(YK)

印西班：去るデフリンピックでの裏方場面での一コマです。帰国前の空港でバレーボール男子優勝のウクライナチーム登場。出迎えスタッフのおめでとう！ おめでとう！ の歓迎にすぐさま「ありがとう、そしてごめんね。日本もすごく強かった！ 僕たちは日本が、礼儀正しい日本人が大好きになりました」と、驕りなき喜びの中、思いやりも忘れない選手団。来たときは軽そうだった彼らのスーツケースは腰が抜けそな増量っぷり。あの満面の笑みが今でも心を温め続けてくれています。

白井班：学生時代勉強嫌いだっただ娘が最近アプリでフランス語と韓国語の学習をしている。去年旅行に行き、看板やメニューがわかっただらもっと楽しいかもしれないと始めたらしい。翻訳アプリさえあれば平気！ といつも言っていたが、読みたい、わかりたいという気持ちが芽生えたらしい。内発的動機付けを目の当たりにしたのでした。

習志野班：2月冬本番。春が待ち遠しい毎日です。昨年年度始めからを思い起こすと、新しい講座の受講や手話施策推進法の施行、各種資格試験、デフリンピックと目まぐるしい一年でした。新たに迎える年度に向けて力を蓄えるべく地道な努力を続けたい、と思う今日この頃です。

船橋班：娘に会うために乗った逗子行総武線。ふと顔を上げると8、9ヶ月位かなと思われる妊婦さん。バッグには赤ちゃんマークも付いていました。咄嗟に「どうぞ」と立ち上がったのですが「いいえ、大丈夫です」と固辞されるのです。2駅程先で座られたのですが、道々考えました。あの方にしてみれば自分の祖母程の高齢者に席を譲ってもらうようなもの。会った娘に話したら一言「微妙」。(KS)

流山班：12月31日に台所のレンジフード(換気扇)が壊れました。夫がめずらしく手を付けて、シロッコファンが固着したねじがダメになった。この際買い換えようと思っています。自動洗浄付きがあるそうで、それなら高くてもいいかと思い検討中。使っている人がいたら、ぜひ使用感教えてください。(emiko)



わかしお班：昨年暮れから持病の腰痛に悩まされ、通院の明け暮れ、鎮痛剤を飲みながら通勤の毎日。デフリンピックの現地応援にも行けず、友人から送られて来たLINEでひとり盛り上がり、外房地区ではデフサーフィンが盛り上がっていました。2026年午年の今年、馬の勢いのように更に手話言語が広まる事を願います。(NY)

六つ星班：お正月用のお餅。皆さんはどうされているのでしょうか。我が家では毎年、12月30日にお餅をつきます。流石に臼と杵は使いませんが、もしかすると40年物？になるかもしれない電気餅つき機が現役で頑張ってくれています。そして、餅つき担当は父と母。40年物の餅つき機も、後期高齢者となった両親も、まだまだ頑張れます

鎌ヶ谷班：初めてろうあ者に会い手話と関わって半世紀。一昨年5月にガンの告知を受け治療を始めた。闘病期間の中でとりわけ強く感じたのは「全ての根源は健康である」ということ。人々の支えがなくては外出もままならない日常は、心身共に萎える日もあったが、優しいろうあ者とサークルの仲間の支えで通いとおした。自分の我を通し続けて生きてきた私自身を振り返り、反省しきり。人に対する優しさや感謝の気持ちが持てるようになった気がしている。これからも安心して暮らせる共生社会を目指して活動に参加できたらと願っている。(IK)

八街班：研究誌の「カバンの中の一冊」が好きだったのですが残念です。私は人一倍本を読んでいないのでソンをしてしまったと思っています。たまに読んで気に入ってしまうと人に勧めたくなり、妹に「リラの花咲くけものみち」を勧めたら、横浜の図書館では500人待ちだったそうです。一番はやっぱり山崎豊子さんがいいなあ。

市原班：大学時代の先輩と久しぶりに話す機会がありました。先輩は、このAI時代だからこそ、やはり『人』なんだと。効率的な一貫性のあるサービスが提供される中で、一緒にいる人、対応してくれる人によってその時間の満足度は違います。改めて人との繋がりを大切にしていきたいなと感じています。

市川班：2026年春、京葉ガス球形タンクの跡地に都市型ショッピングセンター「そよらリーフシティ市川」がオープンします。「そよら」とは「そら、寄って、楽しんで」日常にさわやかな風が吹き込むようにとの思いが込められているそうです。市川駅から徒歩7分の立地条件もよく、いまからオープンが楽しみです。

成田班：大きなカレンダーの裏に「晴雨表入り年間予定表」があったので、壁に貼りました。母が元気だった頃、実家の壁にあり帰省するたび記入してある様子に子ながらも感心していました。家族からは「どうせ三日坊主」と言われています。今の所、毎日必ず…ではないですが数日遅れでも記入を続けています。さてさて今後は…。

かずさ班：新年初めの定例会は、懇親会でした。用意されたたくさんのお料理と参加者からの差し入れがテーブルいっぱいになり狭しと並ぶ中、乾杯の挨拶で始まり、和気藹々と手話ベリ（お喋り）と笑顔の花が咲きました。班長さんの「今年の抱負を1人ずつ」にうなずきつつもいろいろな話で盛り上がり、誰も発表しないまま楽しい会は終了しました（笑）ちなみに私の今年の抱負は『健康第一』です！（TJ）

海匠地域班：全国高校サッカー選手権の決勝戦、神村学園（鹿児島県）VS 鹿島学園（茨城県）の試合を観戦！ 国立競技場は6万人を超える応援で満席。選手達の活躍は勿論のこと、応援席も力いっぱいの声援で盛り上がっていましたね～。選手の好プレーに拍手、選手交代にねぎらいと励ましの拍手… 高校時代の大きな思い出となったに違いありません！

千葉市班：お鍋の美味しい季節。卓上コンロにユニットを取り付け、ガスストーブとして使える商品をご存知ですか？ 非常時しか使えないと購入に迷ったり、どこにしまったっけ？ となりがちですが、普段使いのものだといざという時にも使いやすいですね。市3団体で災害時に使えるバンダナを作成しました。いざ！ に備えつつ、いざ！ が来ませんように。

八千代班：1月は新年の華やいだ気持ちとともに、震災・減災を考えさせられる時期でもある。先日「過去の震災において、聞こえない人の死者数は聞こえる人の2倍である」と知った。何かできることはないのか？ 話し合いの中で、個々人の防災知識がまちまちであることに気付いた。まずは、自治体の防災方針を知り、それに即した行動を考えることが必要かもしれない。

松戸班：筋トレが好きで週1回のジム通いを30年以上続けています。しかし痩せない。それどころか確実に巨大化していく太もも、腰回り。原因をいろいろ考えてみました。たどり着いたのは股関節の硬さ。股関節がスムーズに動くと脚、腰がスリムになるそうです。ぜひ皆さんも股関節のストレッチをしてみてください。見た目マイナス10歳、頑張りましょう。

視覚障害者のホーム転落をなくすために

日本弱視者ネットワーク、ホーム転落をなくす会、日本網膜色素変性症協会、日本障害者協議会（JD）は、視覚障害のある人が安心して移動できる社会をめざし、「駅で命を落とさない」というあたり前の安全をすべての人に届けるため、オンライン署名を呼び掛けています。（ホーム転落をなくす会 change.org）



署名サイト



ホーム転落 Q&A

役員短報

日時：1月4日(日) 9:30-11:30
 会場：オンライン
 参加者：14人

<主な議題>

○三役

- ・12月22日(月) 「災害等、緊急時における通訳者派遣システム」の再構築検討委員会
米田会長・折原事務局長参加
- ・手話を考えるフォーラム
ちば通研としての担当者を決定
- ・Zoom 契約解約に伴う新契約について

○広報部

- ・2月号掲載記事の確認

○組織部

- ・会員拡大 334人(12月31日現在)
- ・中央地区講座
2月7日(土) 13:30~15:30
「傾聴ってなんだろう」
- ・南総地区講座
3月1日(日) 9:30~11:30
「避難所運営ゲームなどを中心にワークショップ」
- ・役員選出方法及び防災について
2月の地域班会議に提案する。
- ・4月19日(日) 10:00-12:00 総会
総会開催に向けての準備作業について

○研究部

- ・2026年度ちば通研集会についての会議を開催する。

<部・班の報告>

○N-Action

- ・2月1日(日) 学習会を開催(埼玉)

○後援会

- ・担当者の任期について検討する。

○関東手話通訳問題研究会

- ・1月25日(日) 午前に支部代表者連絡会議、午後に健康担当者会議が開催される。

役員短報

日時：1月24日(土) 9:30-11:00
 会場：オンライン
 参加者：13人

<主な議題>

○三役

- ・全通研議案書の意見集約について取りまとめをする。
- ・耳の日まつりの販売等のお手伝いについて

○広報部

- ・3月号掲載記事の確認
- ・ホームページを無料から有料に変更。

○組織部

- ・会員拡大 335人(1月27日現在)
- ・定期総会と地域班会議の準備について
- ・災害担当者を地域班に設置していく方向で協議を進める。

<部・班の報告>

○研究部

- ・2026年度ちば通研集会について7月に開催する予定。

○労働班

- ・2月15日(日) 協会の福祉労働委員会と労働班の合同学習会を開催。

○関東手話通訳問題研究会

- ・1月24日(日) 支部代表者連絡会議
健康担当者会議

今後の予定

- 2月8日(土) ろう教育班学習会
- 2月14日(土) 関東合同防災学習会
- 2月15日(日) 楽しく未来学習班
学習会
- 2月21日(土) 組織部会議
- 2月22日(日) 地域班会議・役員会
医療班学習会
- 2月24日(火) 広報部会議
- 2月27日(金) サポーターズ印刷日

お知らせ

○ちば通研ホームページにアクセス

アドレスは以下のとおりです。

<https://syuwa-chiba.la.coccan.jp>

QRコードでホームページに

アクセスできます。

会員専用ページは

パスワードが必要です。



○ちば通研へのお問い合わせ

ちば通研への連絡は下記のアドレスへ。

E-Mail: syuwa@nifty.com

○原稿募集

原稿掲載にあたり、150字程度でお名前は本名もしくはニックネームを明記。

次号の原稿締切は2月15日(日)です。

E-Mail: c-koho@c2ken.sakura.ne.jp

FAX: 043-247-1201(早朝・深夜は不可)

会費の納入のお願い

2026年度の会費を受け付けております。

会費は振込にてお願いいたします。振込先は以下のとおりです。なお、申し訳ありませんが振込手数料はご負担ください。複数人まとめての納入は全員の名前をご記入ください。

○年会費

会費 10,000円

読者会員 6,500円(聴覚障害者のみ)

○郵便振込先

口座番号: 00120-4-708239

加入者名: 千葉県手話通訳問題研究会

※ゆうちょダイレクトで振込の場合は、月5回まで無料です。

けいわん110番

<医療的な相談窓口>

滋賀医科大学社会医学講座(衛生学)

TEL: 077-548-2187

FAX: 077-548-2189

<仲間を守る取組みに関する相談窓口>

FAX: 057-451-3281

*何かありましたら、いつでも、ちば通研健康対策班に、ご相談ください。

FAX: 043-247-1201

○安否確認の報告はこちらへ

ちば通研では、2014年度から安否確認訓練をしています。最近、災害はいつ起きてもおかしくない状況です。そのため、会員の安否確認をよりスムーズにするため、専用のフォームを開設しました。

災害の時は、自分から

アクセスして状況を

ちば通研に報告してください。



<https://forms.office.com/r/5bav1TCt53>

あ と が き

2月といえば「節分」ですが、私の子どもの時の実家では「豆まき」と云っていました。「鬼は外・・・福は内・・・」と大声で豪快に家の中で豆をまく父の姿を、今でもはっきりと覚えています。近所のお寺では節分に豆をまくので、姉と一緒に豆拾いに行っていました。歳の数だけ豆をいただくのですが、さすがに、最近は数が多く食べきれないですね。(IT)

今月半ばで通訳者養成講座1年目のカリキュラムが終了します。そして3月に修了式。次の講座が開講するまでの空白期間が長くて不安... 積極的にいろいろなイベントに参加しようと考えていても不安は消えないのです。通研では先輩方に勉強法などを質問することができて、とても勉強になります。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(YK)